



会員 永野 亮

1年目の気持ちを忘れない

昨年を振り返って

私が弁護士登録したのは一昨年の12月であるが、既に67期の修習が始まっていると聞くと、時の流れのはやさを感じる。

思えば、登録したての頃は、右も左も分からず、何をするのにも不安で一杯だった。

たとえば、初めての公判期日で「陳述します」と言うだけでもドキドキしていたこと、昼からの期日に、朝から顔が緊張で強ばっていたのを先輩弁護士に笑われたこと、生計を立てていけるか不安で、いつも「何か仕事が無いだろうか」、「こんなことで弁護士として成長できるだろうか」とばかり考えていたこと、どのくらいお金を使えるか分からず、昼食は食べないか、一番安いパンだったこと…今となっては、全て良い思い出である。

ともかく、ずっと憧れていた弁護士として、実際に働き出した嬉しさや、刺激的な毎日の面白さに代えられるものはなかった。当時の気持ちは、これから何年経っても忘れないし、忘れたくない。

登録後しばらくすると、先輩の弁護士にお世話になって、一緒に事件をさせていただいたり、個人で受任したりする仕事も少しずつ増えはじめ、1年を通してみると、民事事件、刑事事件、家事事件と、比較的幅広い分野を経験させていただいた。特に、私が昨年受任した事件には、依頼者が外国人の事件が多く、通訳の方と共に接見や調停に行ったり、中国法の理解が必要になったりする訴訟も経験した。

また、所属する法教育センター運営委員会の活動で、多数の小・中学校、高校へ行き、模擬裁判の指導を行った。委員会活動は、いつも他の委員の方々と共に生徒と触れ合い、楽しく活動している。自分で言うのも何だが、わりと生徒のウケは良いのではないだろうか。

結局、1つ1つの事件に全力で取り組み、委員会や研修、会派等にも密に参加できたことを考えると、自

分の中では充実した1年になったと思っている。

はじめは「不幸の星のもとに生まれたのではないか」と思う程、自らの境遇に不安こそあったものの、幸運なことに今の事務所に大変お世話になり、また、周りの方々と同期に恵まれたことによって、何とか弁護士として生活することができている。

お世話になった方々には、本当に感謝してもしきれない。

今年の抱負

今年から、66期の弁護士が本格的に活動を始める。

私も、1年経って少し慣れたとか、甘いことは全く言っていない。多少挑戦的だが、他の誰にも負けないという気持ちで、同期の弁護士と日々切磋琢磨し、知識と経験を蓄えて、今年も様々な仕事をやっていきたい。

特に、私は個人で仕事を取る必要があることから、隣接業種等とも上手く連携することによって、仕事の幅を広げつつ、得意分野を開拓してゆこうと思う。

そして、困っている人の助けとなり、どんな質問も的確に5秒以内に答えられるような弁護士になりたい。

また、今年は健康を害しない程度にお酒を飲み、美味しいものを食べ、スポーツもして、私生活も楽しみたいものである。

…少し欲張りだが、抱負なので良いだろう。

最後に

寄稿するにあたり何を書くべきか思案したが、1月号ということで、昨年を振り返った上で今年の抱負を語ることにした。

これから弁護士として2年目を迎えるが、何年経っても1年目の信念と情熱を忘れず、日々精進し続けたい。

今後とも、何卒よろしくお願いいたします。